

庁舎等の概要

資料 1

	峰山庁舎	大宮庁舎	峰山総合福祉センター	増築棟	旧丹波小
竣工年（築年数） ※R2年度末	H4（29年）	H11（22年）	S39（56年）	—	S53（42年）
構 造	鉄筋コンクリート造4階建	鉄筋コンクリート造4階建	鉄筋コンクリート造2階建	鉄筋コンクリート造4階建	鉄筋コンクリート造2階建
延床面積	3,858㎡	4,117㎡	2,205㎡	4,860㎡	2,558㎡
早期に必要な 改修工事 ※注1	空調改修、外壁改修、屋 上防水改修	空調改修	外壁改修、屋上防水改 修、耐震改修、空調改修	—	—
増築棟計画時の 配置部局 ※当時の部局名	議会事務局、秘書広報広 聴課、企画総務部、財務 部、市民部、医療部、会 計課	教育委員会事務局	健康長寿福祉部	監査委員事務局、農林水 産環境部、農業委員会事 務局、商工観光部、建設 部、上下水道部	—
再配置計画時の 配置部局 ※当時の部局名	議会事務局、市長公室、 総務部、市民環境部、医 療部、会計課、監査委員 事務局	農林水産部、農業委員会 事務局、上下水道部、教 育委員会事務局	商工観光部、建設部	—	健康長寿福祉部

※注1…早期に必要な改修工事について、各改修工事を単独で実施する場合は、経年劣化による庁舎の維持補修工事となり、合併特例債は活用できないが、庁舎整備（増築棟）又は庁舎再配置と一体で改修することで合併特例債を活用できる。

評 価 項 目

評価項目	着 目 点
1 災害対策機能	災害時に機能する庁舎であるか
2 市民の利便性	市民にとって利用しやすいものであるか
3 交通アクセス	交通アクセスの観点からの評価
4 行政の効率的な運営	本庁機能集約化により効率的な行政運営となるか
5 合併特例債の活用	有利な地方債である合併特例債の活用の有無
6 整備費	庁舎整備費の観点からの評価

評価項目における状況

評価項目		庁舎整備（増築棟）	庁舎再配置
1 災害対策機能	想定浸水深	①増築棟 0.5～2m ②峰山庁舎 0.5～2m ③峰山総合福祉センター 0.5～1m ④大宮庁舎 0～1m	①旧丹波小学校 3～5m ②峰山庁舎 0.5～2m ③峰山総合福祉センター 0.5～1m ④大宮庁舎 0～1m
	災害対策本部	増築棟の2階に災害対策本部として利用できる大会議室と仮眠室を設置。また、4階にサーバ室、屋上に自家発電設備を設置し、災害に強い施設。	峰山庁舎2階の会議室を災害対策本部として利用。
	耐震改修予定	峰山総合福祉センター	峰山総合福祉センター
2 市民の利便性	本庁	①福祉部局 峰山総合福祉センター ②教育委員会 大宮庁舎 ③その他本庁部局 増築棟、峰山庁舎 <増築棟施設> 相談室（プラバシーに配慮）、談話コーナー、来賓用会議室、各階に多機能トイレを設置	①福祉部局 旧丹波小学校 ②教育委員会 大宮庁舎 ③その他本庁部局 峰山庁舎、峰山総合福祉センター、大宮庁舎
	市民局	従前どおり	従前どおり

評価項目		庁舎整備（増築棟）	庁舎再配置
3 交通アクセス	路線バス 京都丹後鉄道	<p>①増築棟・峰山庁舎 バス停 京丹後市役所前 ※R2. 10. 1より 峰山駅 徒歩 約15分</p> <p>②峰山総合福祉センター バス停 丹後中央病院前 峰山駅 徒歩 約15分</p> <p>③大宮庁舎 バス停 大宮庁舎前 京都丹後大宮駅 徒歩 約8分</p>	<p>①峰山庁舎 バス停 京丹後市役所前 ※R2. 10. 1より 峰山駅 徒歩 約15分</p> <p>②峰山総合福祉センター バス停 丹後中央病院前 峰山駅 徒歩 約15分</p> <p>③大宮庁舎 バス停 大宮庁舎前 京都丹後大宮駅 徒歩 約8分</p> <p>④旧丹波小学校 バス停 丹波 峰山駅 徒歩 約9分</p>
4 行政の効率的な運営		<p>①峰山庁舎及び増築棟を中心に集約化</p> <p>②増築棟においては、間仕切りのない執務室とすることで、将来の組織・機構の変更に柔軟に対応できる汎用性の高い庁舎</p>	①旧丹波小、大宮庁舎も最大限活用し集約化
5 合併特例債の活用		R6年度までの活用が可能	R6年度までの活用が可能
6 整備費		<p>38.3億円（実質負担15.8億円）</p> <p>※議員全員協議会後の追加・参考資料より（H30. 8. 22時点）。ICTなど庁舎機能の高度化に係る費用など、今後の基本設計により金額は異なります。</p>	<p>24.2億円（実質負担10.1億円）</p> <p>※議員全員協議会後の追加・参考資料より（H30. 8. 22時点）。ICTなど庁舎機能の高度化に係る費用など、今後の基本設計により金額は異なります。</p>

各計画のメリット・デメリット

区分	メリット	デメリット
1 庁舎整備（増築棟）	<p>①増築棟新築による市民の利便性に配慮した庁舎、災害に強い庁舎 利用しやすい動線、サイン案内、多機能トイレなど市民の利便性とユニバーサルデザインに配慮し、また、耐震性も十分に備え、サーバ室は免振床とし4階に、自家発電は屋上に設置するなど、災害に強い庁舎。</p> <p>②職員の庁舎間移動が大きく減り、効率的な業務の執行 頻繁にある部局間での協議や打合せなどにかかる移動の無駄が省け効率的な業務執行が図れる。</p> <p>③市民や団体・事業者にとっての利便性 複数の部局に用がある場合に、余分な移動時間や移動コストの負担軽減となり、また、来庁機会の少ない市民にとって分かりやすい。</p>	<p>①峰山総合福祉センターの老朽化による整備等 将来的に、最も築年数が古い峰山総合福祉センターが使用に耐えられなくなった場合、建替えや移転の検討が必要になる。</p> <p>②職員駐車場が遠方 庁舎前駐車場は来庁者用に確保し、職員駐車場は丹後文化会館駐車場や旧吉原小グラウンドを利用するため遠方になる。</p>
2 庁舎再配置	<p>①イニシャルコストの抑制 増築棟整備と比較して、初期の施設整備経費が抑えられる。</p> <p>②施設の有効活用 学校再配置により空校舎となった旧丹波小の有効活用が図れる。</p>	<p>①峰山総合福祉センターの老朽化による整備等 将来的に、最も築年数が古い峰山総合福祉センターが使用に耐えられなくなった場合、建替えや移転の検討が必要になる。</p> <p>②旧丹波小学校の想定浸水深 京都府発表の洪水浸水想定区域図では、旧丹波小学校は3m～5mの区域。</p>